

東日本旅客鉄道株式会社

執行役員 盛岡支社長 大内 敦 様

申 入 書

平成 29 年 6 月 5 日

遠野市長 本田 敏秋

遠野駅舎の未来を考える会会長 河野 好宣

J R釜石線遠野駅舎の活用策協議について

遠野駅舎の整備につきましては、方針、工事時期等について市民及び多くの遠野ファンの心情にご配慮いただいておりますことに深く御礼申し上げます。

この度は、今後一層の事業推進のため、ワークショップにより提案された市民の声を基にした駅舎の活用案策定と、今後の遠野駅舎を核としたまちづくりに貴社のご助言ご協力を賜りたく、協議体制の構築につきまして申し入れをいたします。

貴社の多大なるご尽力によります「S L 銀河」の運行は、当市への観光客の増加に反映され、運行を契機としたS L 銀河ステーション整備やおもてなしプロジェクトなど付帯事業の実施が地域の活性化に大きく結びついております。

遠野駅はこれまでも今も変わらず、まちの歴史文化と賑わいのシンボルであります。

遠野駅舎の未来を考える会では、平成27年2月9日の結成以来、各活動の機会に、遠野駅舎への思いと駅舎を核としたまちづくりへの思いを共有してまいりました。昨年は、市民ワークショップ及び遠野市中心市街地活性化協議会によるアンケート調査を実施し、遠野駅舎の景観への愛着と、人が集う場所づくりへの期待の声が多く寄せられております。

遠野市は、内陸と沿岸を結ぶ交通の要所にあたり、柳田國男が著した『遠野物語』の世界と日本のふるさとと呼ばれる原風景を求めて、年間 200万人を超える観光客が訪れています。

遠野駅舎は、昭和25年当時、時代の変化により失われつつあった地域の個性を守り、城下町遠野の風情に合う様「遠野らしさ」を大切にするという理念により「ヨーロッパの建築様式を取り入れた石積みをおもわせる重厚な趣ある硬質コンクリートブロック造りの駅舎」として整備され、市の都市整備はこの駅舎景観を基本として進められてまいりました。

昭和60年に策定した「遠野市H O P E 計画（地域住宅計画）」による地場産木材をふんだんに使った潤い溢れる大工町通りの街並み景観（建設大臣手づくり郷土賞受賞）を皮切りに、平成6年からの下一日市地区区画整理においては、宿場町として栄えた町家文化の趣を伝える蔵造りの街並み景観を整備しました。

さらに、平成21年に策定した「遠野市中心市街地活性化基本計画」のもとでは、遠野駅北側への市営住宅建設、駅前では駅舎の外観との景観統一を重視した洋館風のまちおこしセンター、町家と蔵を基調とした観光交流センター、文化拠点施設では平成22年4月にリニューアルした市立博物館、平成25年4月に「とおの昔話村」の大規模リニューアルによる「とおの物語の館」をオープンいたしました。

城下町遠野の風情と歴史を今に伝えるこれら一連の整備は「遠野物語を核とする民俗学と建築文化の振興及び歴史的町並み修景の業績」として、平成26年に国内で最も権威のある建築の賞「日本建築学会文化賞」を受賞するに至りました。

これら全ての基本となってきた遠野駅舎は、「永遠の日本のふるさと遠野」を標榜し、地域資源を活かしたまちづくりを進める当市にとってまさに地域の宝であります。

これまでも多大なるご配慮を賜りながら厚かましいお願いとは存じますが、引き続き遠野駅舎の改修事業に際し、ご配慮ご高配を賜りますようお願い申し上げます。